

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 8名回答、回答率 100%
保護者様： 16名回答、回答率 84%

職員の意見

○環境・体制整備

事業所の設備としては、バリアフリーへの配慮はなされていない。
肢体不自由児に対しては、必要に応じて職員が対応している。

○業務改善

ガイドライン自己評価においても貴重な意見として活動に反映させるよう努めている。

○適切な支援の提供

個々の活動に関しても、前例に囚われず新たな試みを取り入れている。
新たな試みに関しては、事前に試作等を行い児童がより楽しく学べるよう
職員が協力して開発、開拓を行っている。
また、活動等は生活の一環として、準備から片付けまでも児童が協力して行えるよう
配慮している。

○関係機関保護者との連携

課外活動として、知的障害者のためのスポーツ組織であるスペシャルオリンピックス
や、日本フロアホッケー連盟との関係を持ち、障害者の開かれた世界と関わりと
共に、保護者にも参加を促し、視野を広める活動を不定期ながら実施している。

○保護者への説明責任等

日頃、送迎時での対面、サービス提供記録での連絡、電話での相談、半期に一度の
保護者会での活動状況の開示、支援計画策定時の面談等により保護者とのコミュ
ニケーションを図っている。

○非常時等の対応

月に一度、様々な状況に応じて避難訓練を実施している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

教室のスペース、職員の配置については7割近くの保護者より適正であるとの評価を頂いているが、法定要件に囚われず職員の配置、教室の拡充が望まれている。

○適切な支援の提供

適切な支援については9割を超える高評価も受けているが、放課後児童クラブ、児童館との交流については、保護者からもあまりニーズを感じられないと受けとられている。又、時間的な制約から交流は難しいと感じられている。

○保護者への説明等

保護者への説明に関しては9割を超える評価を頂いている項目も多いが保護者同士の連携や支援については、保護者のニーズの掘り起こしから始める必要があり、引き続き検討をしていく。

○非常時等の対応

避難訓練については9割以上が適切に行われているという高評価を頂いているが緊急時の保護者との連携及び対応については改善の余地があると考えている。

○満足度

子供達は通所を楽しみにしている事、保護者は、事業所の支援に満足している事が伺える。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

教育訓練の充実による、スキルアップの計画的実施。

○改善できた点・まだ残る課題

保育士試験等を通して職員スキル向上を進めているが広がりには乏しい面がある。教育訓練の実施訓練記録が不十分であり、今後記録を残し定着を図る。



アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

職員の定着率が高く安定した運営ができています。
スペシャルオリンピックスや日本フロアホッケー連盟等とも連携を持てることからより開かれた教室として、児童に貢献できる組織となっている。

○改善点

職員の更なるスキルアップを目指すため、研修、OJTの充実を図る。
保護者とのコミュニケーションの更なる充実を図る。



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

保護者よりニーズが多かった課外活動の充実を図りたい。
課外活動として利用できる施設を開拓し、継続的な活動に繋がられるよう各方面へ働きかける。
また、その実現には現状の人員の補充と育成が不可欠となる。

○1年間で取り組む具体策

職員のスキルアップのため研修、OJTの充実を図る。
生活力向上のため、買い物活動、レストランでの昼食等従来では実現が躊躇われた活動についても積極的に取り組む。
保護者会に限らず保護者参加型の活動を充実する。

スマートキッズ